第３回　嬉野市総合戦略推進委員会　議事要旨

日時：2015年８月19日（水）　15：00～17：45
場所：嬉野市役所塩田庁舎３階　３－１・３－２会議室

◇出席委員：戸田委員、副島委員、毛利委員、前田委員、田中委員、村上委員、熊谷委員、林委員、松永委員［計９名］

◇欠席委員：なし

【次第】
１．開会
２．委員長挨拶
３．今後のスケジュールについて
４．嬉野市人口ビジョン（素案）について
（質疑応答を含む意見交換）
５．嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
（質疑応答を含む意見交換）
６．その他
７．閉会

１．開会

２．委員長挨拶

○委員長
残された時間はあまりないが、総合戦略案についてまだ改善の余地があると思う。残された時間は短いが、今日はぜひ議論を活発に行って、それを反映させていただきたい。

３．今後のスケジュールについて
（配付資料の確認とスケジュール説明）

４．嬉野市人口ビジョン（素案）について
（ビジョン素案　説明）

○委員

最後の交流人口346万人という数字は、ある時からある時の伸び率が今後も続いた場合という根拠で算出したのか。

○事務局

総合計画の後期基本計画での平成29年度目標値が220万人。そこも確認した上で、直近の観光客数の推移等も見て、346万人という推計をしている。

○委員

300万人も受け入れらたら旅館の数なども足りなくなる気もするが、そういうところはあまり勘案せずに、ということか。これは単純に数学の計算ではじき出したということでいいのか。

○事務局

観光客数なので日帰り客と宿泊者の両方がいる。現在、本市の特徴は、数表にもあるとおり、宿泊客数が伸びておらず、日帰り客数が伸びている。おそらくこういう形でこの先も推移するものと思われる。外国人の観光客等も考えられる。そういうことで、数学的と言われたら、そういうことになろうかと思うが、根拠として何%伸びて云々というところまでは出していない。

○委員長

例えば人口が減少していくことは加味されているのか。

○事務局

現時点では加味していない。

○委員

ここでいう交流人口とは、国内の、市外から来られる方ということでいいのか。

○事務局

国内外である。

○委員

この頃には新幹線も開通している。それも踏まえて、日帰り客をさらに取り込める、300万人以上来てもられるような魅力づくりを今から考えていくということか。

○事務局

そのために総合戦略の中で盛り込んでいくということである。

○委員

今回の戦略案の中に、まず、布石のようなものを入れておくということか。

○事務局
　その通り。

○委員
　そういった施策がこの戦略案にあるかということ。

○委員
　日帰り客が伸びている理由の分析はなされているのか。

○事務局
　日帰りだけではないが、旅行形態が随分変わってきたというのが大きく一つあるのではと考えている。宿泊客数の減については、以前の旅行形態は団体客が大人数で来て旅館に一泊するというものが多かったが、そういうものが減少して、今は家族連れ等の小グループの旅行客が多く、宿泊の人もいるが足湯等を楽しんで日帰りするという風に旅行形態が変わってきているのが要因かと考えている。

○委員
　他の市町村にない嬉野らしさという点でいけば、ここがすごく今回の中で重要になってくると思う。

○委員長
　できれば、宿泊客が減っているからではなく、宿泊客をどうするのかも考えたい。

○事務局
　本来は宿泊客数を伸ばしたいところ。

○委員長
　観光都市としてはそうだ。

○事務局
　旅館もこれだけ施設があるので。ただし、事実、以前に比べれば旅館数もかなり減っている。六十数軒あったのが今は三十数軒まで落ち込んでいる。

○委員
　日本全国どこの市町村も人口が減っている。未婚男性は増える、結婚はしない、家族は増えない。それなのに交流人口はこの数字なので頑張らないといけない。かなり厳しい。絶対的に人口も少なくなると思うので。

○事務局

過去の実績は資料の33頁にあるとおり、2006年182万人から2013年195万7,000人に増えている。この過去の実績の伸び率から機械的に346万人を算出した。現時点ではそういう推計をしている。委員がおっしゃったように、これは数学的なものだけれども、機械的にやればそういうことにしかならない。

○委員

後ほど、戦略案の方でも触れたいが、宿泊数もだが、日帰り数が増えたら駐車場が不足する。今、ただでさえ駐車場が慢性的に不足しているので、そういったハード整備も含めて、この交流人口に沿った計画をぜひお願いしたい。

○委員

難しい。駐車場を増やしていいのかどうかというのも、極端に言うと、戦略の期間、５年、10年スパンであれば駐車場は必要になってくると思うが、多分、人口が減ると車の数も減る。そういう中で、2060年を見据えたときに駐車場だらけにしておいていいものかというのも一つある。

○委員

まちなかに駐車場があるというのは、ある意味ではよくない。未利用地がたくさんあるということになるから。

○委員

ある意味、そうである。駐車場は「ない、ない」と言われているが、意外と上空から見ると、実は有料の駐車場がたくさんある。でも、皆さんが欲しいのは無料の駐車場。

今は、駐車場にしているが、将来の有効活用を考えて駐車場にしておくという考えは良いかと思う。ずっと駐車場のままにしておくと、多分そこも儲からなくなって、いつかまた空き地と同じで荒れ地になってしまうのではないか。だから、そういうことがないようにということで、ある時期は駐車場として活用するけれども、次のステップも考えた駐車場の活用の仕方みたいなことを考えないといけない。今回、5年間の総合戦略なので、そこまで見据える必要はないかもしれないが、市の先々を見据える上では、土地の利活用の仕方はすごく重要になってくると思う。

○委員

現状として「シーボルトの湯」の駐車場と、観光協会の裏のコインパーキングぐらいしか市街地の中に駐車場がないという状況ではある。

○委員

だから、あとは、逆に市街地から若干離れたところだけれども、そこまで歩いてく

るのが楽しいよねという施設を何らかのところにたくさんポイント的に置いてあげたほうが良いと思う。そのほうが、車がたくさん来て危ないまちにしてしまうよりも、駐車場の増やし方という意味ではそのほうが良い。例えば駅も含めてだが、駅から歩いてくるところに何か、おもしろいものを…。非常に曖昧で申し訳ないが、立ち寄りたいね、歩きたいねというものを。それは、嬉野市に限らずどこのまちでも思っていることではないだろうか。

○事務局

駐車場については、各旅館が駐車場を持っている。旅館利用のお客様用の駐車場は確保されていると思われるので、それをうまく利用する。逆に言うと、旅館を利用していただいているお客様はどんどんまちに出ていただく、そういうところも含めて利活用をできればと思う。

○事務局

もう一つ駐車場については、今、マイカーでの観光客の入り込みが主になっているが、今後は新幹線で来た観光客をとにかく嬉野で降ろしたいというのが非常に大きい。長崎が終着駅なので、通過駅にならないようにというのがある。

車で嬉野に入ってくれる方を大事にする、また、新幹線の入りというのにも力を入れていきたいとは思っている。そういった面でも、二次交通、市内公共交通の整備、そういうことも必要になってくるのではないかと思っている。

５．嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

（戦略（案）　基本目標１　説明）

○委員長

四つの基本目標ごとに皆さんからご意見を聞きたいと思っているが、まずその前に、僕自身が考えたことを少しお話しさせていただきたい。

この総合戦略（案)、時間はないが、まだまだ改善の余地があるのではないかと思っている。

一番は、総合戦略としてこのたび嬉野市が何をするのか、人口減少社会に力強く立ち向かうために何をするんだというのをもっとはっきり示せないものかということ。やるべきことはこれなんだというものを示した形の総合戦略にできないかということである。

各自治体が戦略を策定している。日本全体が人口減少に突入する中、自治体間の競争、人の取り合いになる。「競争はよくない、取り合ってどうするのか」というお人よしなことを言う必要はなく、自分のところが良いまちになればそれはそれで良いし、みんながそうなれば良いと思う。他がやっていると仮定すると、嬉野市も、自分のまちが良いまちになるようにどんどんやるべきだと思う。そういう意味で、この総合戦

略（案）をまだまだ良い形にできるのではないかと思う。

もう一つは、この後、市民に対してはパブリックコメントと議会での説明がある。そういった中でも、この総合戦略で一体何をするんだというのがはっきりわかる形でメッセージを伝えなければいけない。そういう観点からも改善すべきではないかと思う。

それで、やることは二つある。その二つというのが今日、議論したいことなのだが、一つはこの総合戦略で何をするんだ、どんなメッセージを与えなければいけないんだということ。ここに書いてない追加の新規の事業も含めて、第１回の会議のときも言っていただいたが、皆さんのアイデアをもう一度ぶつけていただきたい。これがメインである。

もう一つは、見せ方の工夫。かなり数が多くの施策が並んでいる。これをもっと整理することができるのではないか。幹の施策と枝の施策。幹なのか、枝なのか。それから、このたび総合戦略として新たに取り組むものなのか、これに書こうが書くまいが嬉野市がやろうとしていることなのか。新規の施策なのか、既存の施策なのか。既存の施策についても、もちろん書いても良いし、書かなくても良い。書くか書かないかはそれぞれ考えればいいと思うが、その辺を考えながら整理というか、見せ方の工夫をすることによってメッセージを伝えられるのではないか。例えば、先ほどの池田課長の説明で、企業誘致ビルの話があったが、これなどはもっと浮かび上がらせる形で掲げれば良いと思う。その辺も含めて、どうしていくのかを、それぞれ四つの基本目標に分けて皆さんと自由に議論ができればと思っている。

では、まず、基本目標１「嬉野市の特性を生かした魅力ある“しごと”をつくる」について。

○委員

企業誘致という話が出ていましたけれども、ビルも整備してくれるという、それについては、今回これで初めて掲載されていたので、そこまでの覚悟がちゃんとあるんだということがわかったというか。とにかく何かつくってくれよと思っていたんですよ。何もないのはいいけれども、子どもたちが残るような、そういうものを何かつくってほしいなと思っていたので。だから、この企業誘致ビルというのは一体どういうものなのかなというのをちょっと聞きたいなと思っていたんですが。

○事務局

企業誘致というと今まで一般的に言われていたのは、製造業、いわゆる工場と誘致するのがメインだった。そうではなくて、今回は企業誘致ビルということで、２階建てとか３階建てとかのビルをつくって、そこに事務系のオフィスが何社か入ってきて、女性の方にそこで働いていただけるような誘致を想定している。１社ではなくて数社が入ってくるようなものである。

○委員

佐賀市の白山の商工会館ビルみたいなイメージ？

○委員

土地も決まっているのか。どこに建てるとかは？

○事務局

未定である。

○委員

企業の目星はあるのか。イメージ的にこんなところというような。どことは具体的に言えないと思うが、幾つか目星があるということか。

○事務局

その通り。

○事務局

まだどことは決まってないが、土地の候補も幾つかある。

○委員

もちろん、それは今言えるものではないので。

○事務局

まだ公表はできないが、土地の候補も、企業の目星もある。

○委員

これもお互い、受け入れ側と来たい側のマッチングが多分大事だと思う。何かそういうのもなくて、とりあえずビルを建てようという感じではないですよねということだけを確認したかった。

○事務局

そういうことではない。

○事務局

企業に紹介するにしても、「来てください、来てください」というだけでは、「どういうものがあるんですか、どこに入れるんですか」という話になる。そう言われてから探すとなるとなかなかうまくいかないが、きちんとビルを建てておけば、そのビルの中を分譲してでも、そのスペースに合わせてつくることができる。先ほど言われたように、まずきちんとした形をつくって誘致をしたい。

○事務局

最近は、バックオフィス――ＢＣＰという視点でも話をしている。災害リスクを極力抑えたいというのが、東京の企業の考え方になっている。企業としては、大災害が起こったときに、東京だけに会社があったら機能が全部ストップしてしまう、そういうことはできないので、災害リスクが少ない地方に企業の一部門を持ってきて、ＢＣＰの役割を果たそうという考え方になってきている。そのような動きが国としてもあるし、企業の中でもある。

そこで最初は居ぬき物件の紹介ということも考えたが、そうではなくて企業誘致ビルをどんと構えて、企業に「来てください」ということで展開していこうということで、今回、計画に掲げさせていただいた。

佐賀県の売りは災害リスクが一番少ない県だということ。ただし、これは九州全体でそうなので競争になる。長崎県も競争相手になる。

○委員

長崎は水害も坂もある。長崎よりは良いかも。

○事務局

実は県内でも競争になる。

○委員

当然、新幹線の駅前開発とその辺はリンクするものではないかなと思うが、そこは交通整理してくれるものだと思う。

○事務局

実は、新幹線の駅前におしゃれな六本木ビルみたいなオフィスを構えることを考えていた。これはいいアイデアじゃないかと思って、企業にも「ここに新幹線の駅が来る。このあたりに企業誘致ビルを建てようと考えている。いかがか？」という話をしたが、いとも簡単に却下された。「別に駅前じゃなくてもいい、何で駅前にそういうビルが必要なのか。社員は新幹線を使って通勤して来るわけではない」ということで。本社から役員が来るとしても月に２回程度なので駅前である必要はないと。別に駅前じゃなくていいのではなかろうかということだった。

○委員

駅の真ん前は要らないと思いますけど、やっぱりある程度、まちなかでないと。買い出しとか、オフィスに努めている人にも必要なので。

○事務局

もう一つは、若い女性の職場の確保ということがある。そこで、福岡にも負けないようなおしゃれなビルで誘い込もうかなと思った。「ああ、あそこはおしゃれなオフィ

スビルだな、じゃあ、あそこで働いてみたいな」とか。

○委員

そういうのがあれば、子どもたちは何かそこに希望が持てる。そういうのが嬉野にあるんだって思って。何かそういうのがあるといいなと私はほんとうに思っていた。企業しか入れないところがちょっと…。

○事務局

ただのオフィスビルではなく、ちょっとおしゃれにしてやることで、若い女性に目を向けてもらえるかなとは思ったのだが。

○委員

とにかく若い人たちに残ってもらうということが大事かなと思うので、そういうものができる、今度この総合戦略を機に建つというのはすごく重要なことだと思う。

○事務局

この前、委員からもご意見をいただいたが、男性がそこで働くには――奥さんの話をされていたが――やはり奥さんの職場の確保が非常に大事になってくるのではないかと思っている。

○委員

Ｐ6（3）に「企業誘致等の情報提供を積極的に行い、」とあるが、今、嬉野はそんなに特筆すべき優遇措置をやっているのか。

○事務局

優遇措置について企業にも聞いたが、最終的に嬉野か、鹿島か、武雄かとなったとき、この優遇措置が非常に大きな要因になってくるとのこと。本市の場合、今、企業誘致制度を持っているが、実はちょっと劣っている。他市に負けないぐらいのものを用意しないと、最終段階で負けてしまう。そのあたりの整備をやっていきたいと思っている。

○委員

武雄市の北方工業団地は、かつてないほどの規模で、大同メタルという大きな企業が来た。武雄市では東京でもかなり営業をやっている。地下鉄の中づり広告などで。それぐらいのプロモーションをしなければいけないのではないか。まずは誘致に向けた優遇措置をつくらなければいけないと思うが、それとあわせて情報提供も。

○事務局

情報提供の部分で？

○委員

情報提供のやり方についても、もう少し踏み込んでいただきたい。ＫＰＩでは平成26年度の企業誘致による新規雇用者数が現状ゼロとあるので、本気度をこの文面から見せていただきたい。企業誘致、企業誘致と何年言い続けてもできていないということを、市民はものすごく不満に思っている。それが、総合計画後期計画策定時のアンケート結果だったのではないか。ここは強いメッセージをめり張りをつけて発信してもらいたい。

○事務局

先ほど、委員長から見せ方の工夫ということでご指摘があった。例え話として企業誘致のことをおっしゃったが、見せ方について良いアイデアが浮かばなかったのだが。

○委員長

これが（１）では駄目か。

○委員

冒頭に持ってくるとか。

○委員長

既存の（１）の雇用の拡大について。雇用の拡大というとかなり大きな話で、中にいろいろなことが書かれている。この辺りはどうなのかと思う。雇用の拡大が一番大事だとは思うが、とはいえ、細かな話も含めて書かれているので、この名前を変えれば、こちらが１番になるかなと思う。雇用の拡大が２番とか３番だとちょっと格好が悪い。

○委員

それに加えて、企業誘致ビルのパース図を描いて見せるのもいいかもしれない。それだけで見え方が違う。市は本気だと思ってもらうためにも、近い未来の話だということを強調する意味でも。契約の関係もあるので、入札を経なければいけないとかいろいろあるのかもしれないが、見せてしまうというのはどうか。

○委員

雇用の拡大という意味合いからすると、人数という数の話でいけば、企業誘致の推進で新規雇用者数が150人というのが一番大きい。ここで雇用が一番拡大しているよねというのが見えてくるのに、雇用の拡大では15人というのが…。数値的に、お題目と目標値がマッチングしていない。

○委員長

（1）から全てが雇用の拡大だと思う。

○委員

だから、（1）から（3）まで含めて雇用の拡大なので、（1）の雇用の拡大というお題目が少し違うと感じる。全体が雇用の拡大であって、その一つにマッチングのところの題名が何かいいのがあればいいなと感じる。（2）が起業者数なので、（2）が雇用の拡大とは若干色が違うのかなというのがあるが、（1）と（3）は何となく近い感じがする。

○委員長

（1）雇用の拡大の箇条書き二つ目の「新しい産業を創出します」というのは、（2）の起業支援とは違うのか。

○委員

ここはすごく違和感がある。

○事務局

雇用拡大の分の産学官の連携ということか。

○委員長

その点である。

○事務局

これは、今、嬉野市も大学と提携して、大学にいろいろな研究のテーマでやっていただいているので、その中で新たな産業を開発できればということで挙げている。

○委員

それが雇用の拡大につながってくるということか。雇用の拡大との関係がよくわからない。

○委員

テーマとマッチングしない。

○委員

テーマと合っているのかなという感じがちょっとした。

○事務局

場所がここではなくてもということか。

○委員

新しい産業を創出し、企業を設立したら、そこに雇用が入るよねという。何かそういう長い話になるのかなというふうに思う。

○事務局

最終的にはそういうことを目的に、何か新しい産業をつくって雇用をという…。

○委員

雇用の場を増やしますという…。だから、箇条書きの●１番目が市内企業の事業拡充で雇用の場を増やすということで、２番目が、新しい産業を創出して雇用の場を増やしますということではないか。

○事務局

その通り。

○委員長

これは、どこまで書くかだと思う。ここに書かなくても、必ず市として市内企業の事業拡大の支援はすると思う。だから、何を書いて何を書かないか、何を前に持っていくか、全て見せ方なのかなと思う。

○事務局

項目の出し方も含めてということか。

○委員長

その通り。やはり（１）が曲者だ。何でも入ってしまう。ＫＰＩとしてはマッチング支援を通じて就職した人数だけになっているので。

別の聞き方をするが、例えばこの基本目標１は（１）から（11）まであるが、この中でここで新たに書いていること、いわゆるこれまでの総合計画とかでは書いていなくて、新たに取り組むと書かれていることはどの辺になるのか。

○事務局

まず、企業誘致ビルの整備。6～7頁の具体的施策の中で企業誘致ビル等の整備というのを書いている。それから7頁の魅力ある地域商業の中で、具体的施策の箇条書き二つ目の商店街等活性化・交流拠点づくり、チャレンジショップ開設、ネット通販やＩＣＴなど。ネットワーク構築、ＩＣＴ活用販売促進の支援は、地方創生の先行型として載せている分である。

8頁では、ＪＥＴＲＯ佐賀等関係機関と連携した海外販路開拓。これも先行型で載せている分。うれしの茶の新付加価値化による需要開拓というのが、今回、総合戦略を

策定することによって国から交付金が出る事業を挙げる分をこれで申請をしていきたいというものである。

10頁の（11）林産物の利用促進の民間住宅や公共的施設等の木造化に対する支援は、新たに総合戦略になったところで入れている部分の施策である。

それから、７頁の具体的施策の一番下の観光、商工、地域等の情報発信、これも先行型の分で挙げているものである。

○委員長

基本目標１のタイトルが「嬉野市の特性を生かした魅力ある“しごと”をつくる」になっていて、これらが嬉野市に魅力ある仕事をつくりますよというメッセージとして伝わればいいのだが、果たしてそうなり得ているかどうかといったところは考えなければいけない。

○委員

これが何にもまして最重要課題ではないかと思って話し合っている。でも、結局、各課はそんな危機感を全く感じていないんだと思う。そういう温度差みたいなものを私は感じた。自分たちが今までやっている施策があそこに入るんではなかろうか、これは入るだろうという感じで挙げているだけではないかと感じる。

○委員長

その通り。

○委員

だから、この農業後継者の確保も、結局、今までしていたものだけで、そこに新しいものは入っていない。

○委員

その通り。冷蔵庫にあるものを引っ張り出してきて並べた感じ。

○委員

本当にそれをこの前の会議から思っていた。

○委員長

今日、各部署担当者の同席をお断りした理由がまさにそれ。せっかくこの場で議論するんだったら、我々だけでもうちょっと自由に議論したほうがいいのではないかなと思った。

○委員

どこかひっかかる。この基本目標とぶら下がっている施策の関係が。

○事務局

言いわけではないが、前回もこの会議で申し上げたが、「地方創生だ」と昨年から石破大臣が声高らかに上げて、報道でも地方創生、地方創生と連日出ていたが、地方創生の取り組みは、今までも地方自治体では普通にやってきたこと。それを特別なことのように言われて、総合戦略を作れということで、こうやって作っているところである。各課には「地方創生」という言葉でなくてもこれまでも関連する施策に取り組んできているはずなので、既存事業でも良いので出すようにということで打診した。そのような言い方で各課に打診してしまったのも、一つの原因ではある。

○委員

そうやってフォローされるのもわかるが、前回の会議を経てまた出てきたのが同じものというところに、何かやはり各課に危機感がないんだなと思ってしまう。ここにそれこそもっと新しいものを…。この間、農業について質問をして、その後また新しく何かプラスアルファを出して……。農業に関しては私も知らないから、担当課でアイデアを出していただくのが一番現実に即したものだと思う。ですから、そこは私も期待していたのだが。農業の現状については私もわからないから。

○委員

先般、白石町での住者向けの就農塾について報道があった。月17万円で家賃も補助するとのこと。これが効果あるのかどうかはともかく、白石の本気度というものが伝わってくる。

私がお願いをしたいのは、ほんとうに本気度が伝わる施策。これだけやったんだから失敗は許されんと周りが思うぐらいの施策を大胆に打ち出してほしいと思っている。

うまくいくかどうか、当然それは冷静に判断しなければならない部分はあるが、内外に本気度を示すことも大事だと思う。先般、ここで私も情報発信について講演をさせていただいたが、ほんとうに共感を持って伝えるということが大事だと申し上げたつもり。まさに共感を持って、私もまちづくりに参加しようと思っていただけるほどの目新しい施策をこの総合戦略の中に踏み込んで文字にしていただきたい。

○委員

他の自治体の戦略案を幾つか見たが、要はそのまちのイメージができるものになっている。いい書き方をしている自治体は、例えば農業ではなく都市的に頑張りたいと思っている市町だったら、企業誘致や工場誘致を既にやってきたけれども、さらにそれを磨き上げるという施策を書いている。だから、「やはりここのまちはその路線で頑張っていくんだな」というのがよくわかる。そういう書き方をしているから、戦略としてはっきり伝わってくる。皆さんが本気度とおっしゃられているように、たくさんあがっている施策の中でほんとうに嬉野市が磨き上げていくべきものはどれかというものを抽出していったほうが良い。

例えば、「お茶」でもいいと思う。お茶をさらなる磨き上げをしていくというか、これで海外の人を呼びこんだりして、それに関係する雇用の場をつくっていくとか。

要は、既に嬉野市として皆さんが認知していたりイメージを持てているものをさらにこういう形で磨き上げていくとか。そういうものプラス、先程のように企業誘致ビルをつくって新たに人の雇用をやっていくとか。これは嬉野市が今までやっていないものだが、「これっていいかもしれない」と私も思うので。

そういった、既存のものと新しく持ってくるものとをうまく組み合わせて、集中・選択して載せていったほうが良い。やりたいことがたくさんあるのはすごく伝わってくるのだが。例えば9頁の（7）“うれしのブランド”野菜の選定及び推進に関して。これも先程の企業誘致のように何か目星があるのか。伝統野菜のこれだとか、誰々さんがつくっている野菜を今からさらに増やすとか、そういった目星があってこの施策を載せていると言われるのであれば、それはそれでいいのかなと思うが。他の自治体のブランド野菜、伝統野菜を見ていても、それなりに名前が知られるまでに相当な時間がかかっている。そういった意味で（７）は、今回、ここに入れるべき項目なのか。そこはご検討いただいたほうが良いと思う。

○委員長

この括弧書きの項目のどれを立てるかということについて、選定はどのレベルでしたのか。各課から上がってきたのをまとめたり、取り下げたりという作業をしたのか、それとも各課から上がってきたものをそのままなのか。具体的には、（５）から（11）まで全て第一次産業で上がっている。それより前と、かなり抽象度が違う。第一次産業が大事だというのはわかるが、ほんとうに統一した視点で掲げられているのか。それも、数が多いので見にくくなってしまっている原因なのかなと思う。

○事務局

各課には佐賀県の総合戦略がこうやって出ている、それを参考にして出してくれということで出してもらった。それを事務局が取りまとめの段階でこういう整理の仕方をしたということである。

○委員

少し間引く必要がありそう。後ろのほうも消防団の数とかどうでもいいような気がしたものも幾つかあった。それは後で提案しようと思ったが、この中でも幾つか間引かないといけないものがある。

そういう意味では、企業誘致ビルというのはすごくいいアイデアなので、そういう具体的なアイデアとリンクするものだけ残すという形でも良いのかなと思う。具体案を持っていないんだったら、別の機会に市民の皆さんにご提案されるのがよろしいのかなと思うが。

○委員

目新しいものは先ほど言われた企業誘致ビルとかだと思うが、それ以外のものは今、既に実施している。それらの効果はあるのか。効果があっているから既存事業も載せているのか。

○事務局

先程、私が言ったもの以外は既存事業だが、それを少し拡充したもので載せているものも結構ある。効果はまだこれだけだけれども、それを少し拡充してやることで、もう少し効果が見込めるだろうということで掲げているものもある。

○委員

全く効果がないものは載せていないという考えでいいのか。

○事務局

基本的にはその通り。

○委員

もう１点。基本目標１は「嬉野市の特性を生かした魅力ある“しごと”をつくる」。その中で１番目は－私が個人的に勝手に思ったのは－例えば４番目の魅力ある地域商業、それかお茶かなと思っていた。どこの市町村でも同じような雇用の拡大であったり、起業支援推進というのが１番、２番だが、それは何か意味があるのか。

○事務局

今回、地方創生の中では、地方に仕事をつくるのが一番だとよく言われている。仕事をつくるということであれば、やはり企業誘致、雇用の拡大あたりが重要になるのではなかろうかということで、この項目を冒頭に据えた。ただし、ここが「魅力ある“しごと”をつくる」ということで逆転しても、考え方としてそれは構わない。ただし、今回、最初に魅力ある“しごと”の中で数値目標180人とまず大きく打ち出している。そこで、一番大きく影響があるのが企業誘致による新規雇用者数だと思う。

○委員長

観光産業やうれしの茶などで魅力ある仕事が増やせるんだと言えれば一番良いが。

○委員

その通り。（１）（２）（３）だったら、別に嬉野市ではなくても良いと思う。ここは特性云々ではないのかなと思う。

○委員長

結論が出ないが、煮詰まってきたので次に行って、また全体を見るということでよ

いか。

○事務局
（戦略（案）　基本目標２　説明）

○委員
目を引くのは日本版ＤＭＯ。今、観光協会と観光課が別々にあるということで、まずはそれを一元化すべきではないかという質問を熱心にされている議員もいらっしゃるが、観光協会との合体という形で公社をつくるのか、どんな形でつくるのか、青写真はあるか。

○事務局
青写真はまだない。これから、嬉野市の中でこれを取り込んでいけるのかという検討を始めたいということで掲げさせていただいている。ここについては実は、挙げるべきか非常に迷った。この日本版ＤＭＯの中には、広域的な観光ルートの形成を目指すといった方向性もあって。今後は嬉野だけでは勝負できない、観光地といえども、やはり周辺市町との連携を考えていく必要があるのではなかろうかということで、この日本版ＤＭＯを掲げさせていただいた。

○委員
なるべく広域で行うようにということで、成功事例もわりと広域で連携している部分も多いので、その辺は、やるということであれば周辺市町のことも視野に入れながらぜひやっていただきたい。焼き物という共通点があるので、有田、武雄などというのはすごく相性がいいのかなと思う。

○事務局
ここは具体的に少し動いているということであれば、それこそ、さきほどの企業誘致ビルではないが強調したい部分ではあったのだが、いかんせん、まだ一切動いていないということで具体的な表現ができなかった。
日本版ＤＭＯは日本版ＣＣＲＣとあわせて資料を用意しているので参考にしていただきたい。
交付金目当ての総合戦略ではないとは重々承知をしている中でやっているのだが、実はこの日本版ＤＭＯと日本版ＣＣＲＣについては、国が来年度の予算で重点的に配分するということで出されているものである。ここについて、本市もまだ実際はやっていないけれども、やはり検討を始めなければいけないかなということで、日本版ＤＭＯと後ほど説明する福祉・介護分野での日本版ＣＣＲＣの検討ということで掲載している。
近隣での日本版ＤＭＯの事例では長崎の小値賀町がある。観光まちづくり公社を設立して、プロモーションにも積極的に動いている。これは委員がよくご存じだと思う。

そういうものが必要になるのではなかろうかとは思う。

○委員

小値賀町は、自分たちで会社をつくって、自分たちで運営、経営をしっかりやって、利益を出しているところまで行き着いているところなので、あそこまで行き着けるようになればいいが。

○委員

嬉野ほどの観光資源があって、できないとは思えない。

○委員

関係者が少ないというか、小値賀はコンパクトにできているのでまとまりが早いという長所がある。資源が豊富だし、最初にスタートした関係者が少なくて、そこから有志がそろってきているから、うまくいっているというところがあるので。

○委員

観光協会が何年か前に立ち上げた市民の地域力開発プロジェクトというプロジェクトで、部会ごとに分かれて、一般の市民の方、まさにこういうワークショップ方式で部門に分かれてやられていると思うが、市民と協働でやっていくというところをスタート地点にしてやっていかないといけないのかな、まず組織をつくっていかないといけないのかなという気がする。

○委員

話が逸れているが、嬉野市でも地域おこし協力隊を入れるという話はなかったか。

○事務局

今のところ、地域おこし協力隊はゼロ。それについては、移住支援・定住促進のところ－13頁だが－、大都市圏での相談会開催としているが、このあたりで移住促進とあわせて、地域おこし協力隊の隊員募集もかけていきたいと思っている。

○委員

地域おこし協力隊に実際何をしてもらうか決めておかないといけない。ただ引っ張ってくるではちょっと…。

○事務局

先進地の江北町には、今、２名おり、数回勉強に行かせていただいたが、委員がおっしゃるとおり、何をさせたいか目的をしっかりまず自治体が持っていないと、来てもすぐに帰ってしまうとのこと。

○委員

その通り。国からの支援金が使えるのが３年なので、３年の間にただ「何かして」と言っていたら、何かするのを考えるので３年終わってしまう。何を嬉野市でやってほしいかをまず示した上で、それに得意な分野を持っている人に協力隊として活躍していただくというのが一番。そこもやはりマッチング。人と地域で何をしてほしいかのマッチングが重要なので、戦略と同じだが、嬉野市で何がやりたいのかというところで地域おこし協力隊を招くというのが大事なのかなと思う。

○事務局

ある市の総合戦略の中では、はっきり地域おこし協力隊何人という目標があるのもあるが、そこまで書けなかった。

○委員

何人と書くからには、何をしに何人呼ぶのかという話がまた突っ込まれてしまうかなと思う。

○委員

最初に取り入れたのは唐津だが、最後は隊員の方も、文句を言いながら帰っていった。大まか「まちを元気にしてよ」とか、そういう指示の仕方で「あとは自分で何とか考えてね」ではいけない。もう少し具体的に踏み込んで、何をしてもらうためにあなたの能力が必要ですと言ってあげないと、隊員の方も「私は必要とされているのかしら？」と思う。

○委員

江北町の話を聞いていたら、やり過ぎと言われるかもしれないけれども、役場の人も相当尽力されているなと思った。地域おこし協力隊員や、外部からＵターンで戻ってきたり移住してきた方が地域に溶け込みやすい環境づくりを非常によくやっている。やはりそこが公共がやらなければいけないことである。新たに来る人にとって入りやすい環境をつくってあげるということをものすごく最初にやられているので、逆に、地域おこし協力隊も、やることが明確になっていれば、そこで地域の方と協働しながら一緒にやるという体制が、江北も何年かかかってようやくそれが今でき上がってきたのかなと、私も現地を見てそういうふうに感じた。

○事務局

そこがポイントらしい。

○委員

自治会への紹介から、買い物の仕方から、事務手続から、一から十まで聞かれたことに対して時間を惜しまず役場の方が手とり足とり、困ったことがあればどこそこに

行きなさいみたいなところからされていたと聞いた。それがまずもってそこに定住する安心感をその人たちに与えたということが大きかったということを言われていた。

○委員

それだと思う。地域おこし協力隊だけでなくて、引っ越したり、ちょっと居住先を変えたときにそことなじめるかとか、そうしたとき、それが移住支援とか定住支援につながっていくと思う。

しかし、どれを見ても、先ほどの雇用にしても、相談会は開設されるが、窓口としてしっかりとしたところがここに書き込んでないので、やはりそういったところの支援というか、サポート体制を書き込んでほしいなと思うところはあった。

雇用の拡大のところでも、相談会の開設。何にしてもそう。そういうものの一本化を。嬉野に住みたいと思ったら、これではたらい回しにされるなと、これを見て思った。ここに行って「あっち行ってください」と言われ、こっちに行ったら「こっち行ってください」と言われそうなまちだな、このまちはと思った。だから、そうしたところをもっと入れ込んでもらって、そういうサポートをしてもらえたら、安心してここに住みたいと思えるんではないかと思うのだが。

○委員

そこまでしても江北の方は１年でやめられてしまった。そこがちょっと何とも…。

○委員

そうですね。今いらっしゃる方はすごくいい感じでというか、今のところはすごく…。

○委員

やっぱりなじむように、アフターフォローというのは欠かせないんだろうなと思った。

岡山や鳥取とかもかなり移住に力を入れていて、情報発信、関西で商談会をやるのは当然としても、アフターフォローがしっかりしているので、そういうところを是非。

○委員長

移住希望者からすると、その辺を横に見ながら品定めというか、どこに行くかを考えると思うので、ちゃんとしてないと勝てない。

○委員

田舎暮らしの大きな不安というのは、溶け込めるかどうかというところでもあるので、そこをしっかり「大丈夫」と請け負ってあげないといけない。

○委員長

大丈夫だと見せてあげないといけない。

○委員

この後の文化芸術の推進のところでも、そういうことを思った。例えば私の父は、ふるさとが嬉野ではあったが、既に実家もない状態だった。親戚がいたから、いつかふるさとで自分の踊りの教室を開きたいと思って、そして稽古場を建てた。それから、長崎に家があって通ってきていたが、そのうち嬉野ファンになって、それでもう、ここに住もう、ふるさとに住むんだということで移り住んだ。父は亡くなったが、私がその後、このまちが大好きでそこに住んでいる。

そうなったときに、文化芸術というか、嬉野にもそうやって移住していらっしゃる方がいる。バイオリニストの岩永ゆりさんとか。そうやって、このまちが好きになって、ここから何かを発信したいという芸術家の方とかもいらっしゃるかもしれない。

うちの場合、たった一人親戚がいたので、そこを頼って来たが、そうしたときに何か情報収集ができるように県外への発信とか、これは開催するだけなので、発信するときに、そうした人たちのための何か、ここで何かをやりたいとか。嬉野にはピアニストの方がいたり、佐賀の方だが、ご主人と結婚してこっちに住まれて、ピアノを周囲の方に教えていらっしゃる方とかいるとか、そういう芸術家の方も多い。

だから、そうした方に対するサポートみたいなものがあるといいし、行政で何かそういうサポートの窓口があると、芸術家の方がちょっと旅行に来たときに見かけて、「嬉野で何かやってみようかな」と思って、そこから嬉野にまた新しい芸術文化が根づくかもしれないので、何かそういう窓口もあるといいのかなと思う。

これは私の体験として、そういうことで移住する人の流れがまた出てくるのではないかと。これを見ていると、ただイベントの誘致とか、芸術を鑑賞する、そういう一過性のもので終わっているが、ずっと継続的にそういうものをここに入れたらどうだろうと思った。

○委員

先般、佐賀大学の理工学部の学生が、クリエイターが住みたくなるような集合住宅を佐賀市の唐人町につくってみようという提案をしていた。クリエイターが住むところだけではなくて、いろいろな提案をしていた方もいたが、その中にそういう提案があった。

○委員

人里離れた山の中だと、気にせず楽器の練習ができますといったような…。

○委員

そういうものを意識して部屋を互い違いの構造にしたマンションとか、そういうのをいろいろやったりしていて、おもしろいなと思った。佐賀大学には今度、芸術地域デザイン学部が、もう少しで正式に認可がおりるので、多分来年できると思う。有田

窯業大学校が佐賀大学の有田キャンパスになるので、嬉野から行っても近いし、そういったところに芸術を志す若者が住みたくなるようなところをつくるというのもおもしろいかもしれない。

○委員

プロを目指す若手芸術家の育成支援のためと書いてあるが、プロを目指さなくても良いと思う。芸術に親しむ人を支援するための交流の場というのがあると、さらに裾野が広がって、人の流れをつくることもより幅広くなるのではないかなと思ったりもした。これは、先行型で今やっていることなのか。

○事務局

先行型ではない。

○委員長

嬉野だからこそということ。ちゃんと文化の香りがしますよという感じのものを。

○委員

嬉野のイメージで何か。でも、次の項目のスポーツという部分、嬉野は高速からおりてすぐのところに球場があって、練習場があって、屋内まで全部整備しているので、ここでもまた何か魅力あることができそう。

○委員

すみません、私、大分に出張で行かなくてはいけないのでここで。なぜか出張の日に必ず日程が入るという。前回もそうでした。申しわけございません。

＜ここで委員退席＞

○事務局

（戦略（案）　基本目標３説明）

○委員長

ここで柱になるものというのは、最後のあたりか。

○事務局

前回会議でご指摘があったが、子育てして再就職をする際にサポート体制が十分でないというのが、女性の社会進出を拒んでいるということで、ここに女性の再就職の促進としているが、実は、嬉野出身の方で、こういうのを生業にしている方がいて、先日ちょっと話をしてきて、起業セミナー等に協力をしていただけるというお言葉をいただいたもので、ここに掲載させてもらった。

○委員長

具体的には、このセミナーを開催するということか。

○事務局

その通り。

○委員

そのセミナーというのは、イメージとして、何回か継続して、例えば３カ月継続とかで、時間がこれぐらいでこういうカリキュラムで…というようなイメージはあるのか。まだそこまではないのか。

○事務局

まだ具体的にはなっていない。県の女性センター等では今もそういう起業支援とか、再就職支援のセミナーをやっているが、どうして佐賀市中心で行われている。時々、嬉野とか地域でも開催されているが、そういうときは積極的に、嬉野であるから参加してくださいと呼びかけはしているが、どうしても佐賀まで通うとなるとなかなかチャンスがないという方もいらっしゃる。できるだけ嬉野市内でそういうものを開催して、機会をたくさん持っていただけたらと思う。

○委員長

これは起業支援なのか。

○事務局

起業支援と再就職の支援。

○委員長

起業となると、かなりハードルが高いので、もう少し幅広いものにならないかと思った。起業と再就職では大分違う。

○委員

広く言えば就業という形になるのか。

○事務局

起業にもいろいろなパターンがあると思う。内職的な感じで、自宅でもできるような仕事を始めるとか、もちろん勤めに出るというのは再就職になるとは思うが、大きく仕事を始めるのではなくても、自分の今までのスキルをもとにやり方を学ぶとか、そういうものもあるかと思う。

○事務局

実際できるかどうか現時点ではわからないが、クラウドというやり方がある。ああいうやり方も一つできてくるのではないかなと思う。例えば企業が何かのロゴをつくりたいというときに、自宅のパソコンでデザインをやっている人が応募して、採用されたら費用が支払われるというもの。そういうクラウドというのが最近はやってきているということなので、その辺も含めたところでの起業と考えている。

○委員長

もっと積極的にその辺を書き込むことは難しいか。女性の働き方として、そういった新たな働き方を支援するみたいな形でクラウドワークのことを。起業支援というよりも新たな働き方として。

女性の就業支援として、一つはオフィスビル等を持ってきて仕事をつくりますよ、女性の働き場所をつくりますよということ。それだけではなくて、こういった形で新しい働き方をどんどん促進していきますよと。そのような二段構えなのか、三段構えなのかわらないが、そういう風に掲げるとか。

そうすると、基本目標3ではなくて基本目標1の「仕事をつくる」になるのか…なかなか難しいが。第１回目の会議でも、女性の働く場がもっとあればという話があった。それを受けた提案、施策だと思うので、非常に大事だと思う。

いかがか。この内容で結婚・出産・子育ての“希望”を叶えられそうだろうか。

○委員

20頁の（５）ＫＰＩの現状の「中３は全教科において市の平均以下」と書いてあって、「全国平均以下」ではなく「市の平均以下」というのは意味がよくわからなかった。市の平均が全国平均以下ということなのか。何か脱字があるのでは。

○事務局

上と一緒、「全国平均以下」ということで訂正いただきたい。

○委員

小６は全国平均以上。それで、中３が全国平均以下だから、両方とも全国平均以上に上げましょうということを言いたいのか。

○事務局

その通り。

○委員長

（３）食育の推進、ここで必要なのか。

○事務局

普通にやっていることかもしれない。

○委員

18頁の（２）妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援の医療の確保について。前回会議でも言ったが、具体的施策の上から２番目の小児時間外診療事業は19時から21時までのままである。結局、うちの子は国立病院に連れていった。うちの子はただの発熱だったが、その時に22時過ぎにひきつけを起こした子どもをお母さんが連れてこられていた。19時から21時の間、南部地区の小児救急医療をここでサポートしますと言われても…。子どもはいつ何が起こるかわからないのに、南部地区でまとめてそこでということで、しかも21時までしかない。これでは弱いのではないかと思う。

前回会議でも出ていたが、国立病院でそういう対応をできないのか。どうにかならないのだろうか。結局、国立病院に行くと、紹介状を持っていないということで、紹介状がないなら…ということになる。やはり気軽には行けない。あれだけの救急体制がある病院が嬉野にはあるので、そこをどうにか官と医で連携をとっていただいて風穴をあけてもらえないかと思ってしまう。

○事務局

ここは非常に難しいところ。医療センターは旧国立嬉野病院だが、国立病院は高度医療、二次医療である。そういうすみ分けが医療制度としてはっきり打ち出されている。そこを覆すのはとても厳しい。

○委員

では、この21時までというのがどうにかならないか。子どもはいつ何があるかわからない。これが夜間といえるのだろうかと思う。

○委員長

子育て世帯が居住地を選ぶときの大きな材料の一つになる。病院がどこにあって夜間どうなのかということは。

○委員

その通り。すぐ駆け込めるところがあるというのは安心になる。

別の話だが、多分ここで答えは出ないと思うが、予防接種は嬉野はどうなっているのか。最近は、ヒブワクチンとかは結構無償化になっているが、水ぼうそうが接種義務化された。唐津は３歳まで無料だが、３歳以降は自費になる。嬉野はどうなのかなと思った。ここでは答えは出ないと思うが、そういうちょっとした細かいところで、どこまでのサポートがあるのかということが気になった。

○事務局

こどもセンターの整備という施策がある。そういう相談機関で、何かわからないことがあれば気軽に聞けるようなサポート体制ができれば。

○委員

その通り。議会で議員が、先日、市長に質されていたが、ほんとうにこれが急がれるというところ。このセンターができれば、一時預かりだとか、いろいろなものをここで解消していただけるのかなと思う。安心して子どもを育てられる環境の確保の中の大きな目玉はやはりこのこどもセンターの整備。これがまず来て、そこでいろいろなことができたらいいなと思う。ここにすごく過大な期待をしているのだが。

○委員長

こどもセンターをもう少し目立つように書くことはできないのか。

○事務局

先ほどの企業誘致ビルと同じように。

○委員長

その通り。

○委員

先ほど企業誘致ビルは整備するとおっしゃったが、こどもセンターは前回会議の質問の中でもそんなに積極的でもなかったような気がする。書けない事情がまだ何かあるのかなと勘ぐってしまう。なぜ市は積極的に整備しようとしていないのか。本気度が弱いのかなと思ってしまう。

○委員

数字的によくわからないところがある。19頁の上から3～5行目の項目について。地域子育て支援拠点事業と一時預かり事業だが、これは現状と目標で、現状から目標の数字が減っているというのは、減るのが目標になるのか。

○事務局

担当課からこれが提出されたときはまさに同じように確認をしたが、子どもの数が減るからということだった。大もとの子どもの数が減ってしまうということだった。

○委員

違和感がある。見せ方としてこれを書いてしまうのはどうなのか。書く意味があるのか。これが意味するものが見えてこない。現状と目標の関係性がわからない。それが施策の中にも明確には書かれていないので、施策の中に書いてあってこの数字になるというのがわからないところがある。ただ、「こういう事業がある」ということだけ

を示すものなのかという感じ。そういう意味では、あえて書く必要があるのかと感じた。

○事務局

もう一度担当課と確認する。

○委員

実際、今もずっと一時預かり事業とか拠点事業を行っていて、まさしく4,000人、１万1,865人とかという数字は、間違いなく達成されるというか、それは常識的にやるんでしょうということであれば、これは必要ないのではと思う。かえって、せっかくの施策と目標がぼやけてしまう要因になってしまうような気がする。

○事務局

担当課の説明では、ほんとうはもっと少ないということらしい。しかし、こういうことをやって、ここまでの数字を目標として掲げますよということ。

○委員長

今のＫＰＩのところで関連して言えば、こどもセンターはＫＰＩなのか。こどもセンターを設立することによって何かが実現するのであって、つくると言っているから、ゼロが１になるのは当然で、これによって実現できるものを載せられればいいと思う。

○事務局

確かにこれでは効果にならない。ＫＰＩというものは成果目標なので、ここはまずい。

○委員長

むしろ本文の中に書くべきことであると思う。

○事務局

（戦略（案）　基本目標４　説明）

○委員長

日本版ＣＣＲＣだが、これは検討とはいえ、書くということにどういう意味を考えればいいのか。

○事務局

全く無視はできないかなということ。都会のお年寄りが地方に移住してもらうということではあるが、ここには書いてないが、高齢者の知恵を地域の中に活用するという視点も一つある。高齢者が元気なうち、健常なうちに地域に来ていただいて、いろいろな地域社会の中で、今までに培われてきた知恵を生かしていただいて、地域の活

力を生んでいくという側面も持っている。ただ高齢者を地方に移住させるというだけで捉えたらいかがなものかと思うところがあるが、そういう観点からは検討すべきということで、一応、この中に入れている。

○委員長

質問させていただいた意図は、自治体によっては、こういうのはうちにはそぐわないから、国は言っているけれどもしないと選択しているところと、是非やりたいが、負担が増えるような形ではよくないので、制度的な整備を求めることも含めて積極的に取り組むんだという意思表示をしているところと、両方あると思う。嬉野市の場合はどちらなのか。

○事務局

デメリット・メリットを判断してどうするのかはこれ以降、総合戦略を毎年見直ししていく中で、判断していきたいと考える。まずは、検討はするべきではないかと思って入れていた。特に本市は医療施設が多いということと温泉があることから、都会の高齢者にとっては魅力ある土地ではないかなと思う。

○委員

ＣＣＲＣをうば捨て山的なものではなくて、まさしくここに書いてあるようなことでちゃんと活用するとすれば、介護予防事業の推進でもあるし、健康長寿のまちづくりでもあるしと、両方にかかってくるのではないかなと思った。

○委員長

積極的に検討はなされたのか。これからするのか。

○事務局

これからである。ここでは打ち出してはいるものの、まだ姿形がない。判断が難しいところ。

○委員長

もちろんそうだと思う。

○事務局

もっと情報を得て検討すべきではないかと思う。今、新幹線の駅前あたりで企業が高級な介護施設ケア、ああいうものの建設とか盛んにおこなわれている。

○委員

ＪＲとか、結構積極的にやられている。

○事務局

そういうのも実際にある。本市も新幹線駅が決定されれば、そういうあたりでも取り込みは考えてもいいのかなと思う。

○委員

高齢者こそ地域に溶け込むのに時間がかかりそうだ、都会の人とか。移住したものの都会に帰られた方も知っているが、やはり地域というのが……。

○委員長

こちらに縁のある方が戻ってくるというのはあり得ると思うが、そういう人しかなかなか取り込みは難しいと思う。

基本目標1～3に比べて基本目標4で何を載せるのかというのはなかなか難しい。幅広いいろいろな可能性があり得るので。

ＵＤの話は基本目標2のほうにあったが、基本目標4ではなくて基本目標2なのか。14～15頁のところ。

○委員

人に優しいまちづくりだから。

○事務局

住みやすいまちのＵＤ推進と、観光客のためのバリアフリーという意味では、両方があるのでそこは……。

○委員長

後者として基本目標2のほうに書かれているとは思うが。配置が難しい。

○委員

バリアフリーツアーセンターというのは、観光の予算で住みやすいまちをつくるというところなので、そうなると人の流れをつくるところでＵＤというのが…。私もこれは普通のことだと思っていたんですけれども、違う方が見られたら、ＵＤは普通はこの安全・安心なところの項目にくるのだろう。

○委員長

いえ、僕がこだわって…。

○委員

私はこういうものだと今まで思っていたもので、自然とここで納得してしまって…。

○委員長

嬉野市が実際に取り組んでいることはこちらに沿っていると思うので。その他いかがか。

この冒頭に掲げられている数値目標が、人間ドック事業受診者数と、こういった会議等を開催する地域コミュニティーの数なのだが、この場合これでしようがないもののなのか。基本目標1～3は、本質的な雇用数とか定住・交流人口数だとか、出生数、出生率というそのものずばりの数字が挙げられているが、「安全・安心な暮らしを守り、市民と協働の“まち”をつくる」という基本目標4についてはこれなのか。

対案はないけれども。

○事務局

ここで即答できないが、基本目標4については、何を目標に掲げようか非常に迷った部分ではある。

○委員長

ここは他の自治体もどこもそうだと思う。

○事務局

ここは他市町の事例等も参考にして、再検討させていただきたい。

○委員長

５時半過ぎたがこの辺でよろしいか。では、今日のところはこの辺で事務局にお返しする。

６．その他

○事務局

今回、大幅な修正等がかからなければパブリックコメントにかけるとお伝えしていたが、今日の協議内容を踏まえた再検討を行いたいので、１週間後ぐらいでこの会議を開かせていただければと思うがいかがか。

＜了承、次回日程調整＞

○事務局

最後に、鳥栖市でも戸田先生が委員長となられて既に総合戦略案ができあがっている。中身も、非常にいい出し方、見せ方をされている。これも参考にしていきたい。インターネットの鳥栖市ホームページで閲覧できるので、委員の皆さんもご参考まで見ていただけたらと思う。

○委員

鳥栖の特色を生かした書き方をしてある。鳥栖がイメージできる書き方になっている。要は「鳥栖は昔からこうだよね」という点について「これからもそこをさらに頑張っていこう」ということを文章のうまい人が書いているだけであって、鳥栖市の場合、無駄に農業のこういうところを新たに何とかしようとかいうことは書いてなくて、今までも産業の拡大をやってきたし、これからも誘致したいからこんなことをしたいみたいなことが書いてある。「鳥栖市のスタイルはそうよね」ということを書いているだけ。

○事務局

鳥栖市は、人口が佐賀県内で唯一伸びているところであり、ほんとうにほかのまちと違ったことができるかなというところである。

○委員長

委員がおっしゃったとおりだとしても、鳥栖市が何をするのかというのを掲げようと工夫されていると思う。やっていることを全部書くわけではなくて、この場で何を見せればいいかというのを考えたと思う。だから、冒頭に言ったように、もう少し見せ方で工夫できることもあるのではないかと思った。全部書かなくても、当然嬉野市が仕事としてやるべきことはやっていくと思うので、この総合戦略として市民に見てもらってパブリックコメントを求めて、議会で議員に見てもらって意見を求めるわけですから、その辺を意識して工夫できればなと思っている。

７．閉会

── 了 ──